

日本先天異常学会のメッセージ

葉酸サプリメントの摂取により神経管閉鎖障害の発症リスクを減らしましょう

日本先天異常学会は、神経管閉鎖障害（脳や脊髄の障害）の発症リスクを低減するために次のメッセージを発信します。妊娠を計画する女性、妊娠が考えられる女性は、妊娠前4週から妊娠12週まで葉酸サプリメント 400 マイクログラム = 0.4 mg/日を摂取することで、お子さんに神経管閉鎖障害が起きる可能性が減少します。また、ご家族の中に神経管閉鎖障害患者を持つ方と過去に神経管閉鎖障害を持つお子さんを妊娠した経験がある方は、ハイリスク群と判断されます（神経管閉鎖障害を持つ児を妊娠する可能性が比較的高い）。ハイリスク群の方は、医師の管理下での葉酸摂取が必要となりますので、医療機関で相談してください。

神経管閉鎖障害（二分脊椎、無脳症、脳瘤）は妊娠6週頃（受精後4週頃）に発症し、脳と脊髄の働きを障害します。このうち二分脊椎は、多くが出生後に治療を必要とします。生後早期の背中での手術治療に続き、水頭症、歩行障害、排泄障害などの治療に加え、生涯にわたるリハビリテーションが必要になります。また、無脳症は生まれても生命の維持が難しく、脳瘤では瘤を取る手術をしても神経学的障害が残る可能性があります。

神経管閉鎖障害は、水溶性ビタミンの1種である葉酸の摂取により疫学的に発症リスクの低減が示された先天異常です。1991年に英国から臨床研究が報告されました(1)。過去に神経管閉鎖障害を持つ児を妊娠したハイリスク群の女性に葉酸 4 mg/日を投与したところ、次子での再発防止効果が72%にのびりました。その後1999年には、中国の初産婦の葉酸サプリメント0.4 mg/日の摂取が、同様の低減効果を示したことが報告されました(2)。

本邦においては、2000年に厚生省（現厚生労働省）が、妊娠を計画する女性に対し、栄養バランスの取れた食事（葉酸量0.4 mg/日）に加えて栄養補助食品からの0.4 mg/日の葉酸摂取による、神経管閉鎖障害の発症リスク低減について通知を出しました(3)。1日全体での摂取量が1 mg程度（体重55kgとした場合）であれば、過剰摂取とはなりません(4)。しかし、妊娠女性の葉酸サプリメントの摂取は10-20%に留まり(5、6)、神経管閉鎖障害の本邦発生率は減少傾向が示されていません(3、7)。

日本先天異常学会は、先天異常の発症リスクを低減する活動により、国民の健康と福祉に貢献したいと願っています。

参考

1. MRC vitamin study research group. Lancet 1991. 338:131-137.
2. Berry et al. New England Journal of Medicine 1999. 341: 1485-1490.
3. 厚生省通達・児母第72号、平成12年12月
http://www1.mhlw.go.jp/houdou/1212/h1228-1_18.html
4. 厚生労働省 日本人の食事摂取基準（2015年版）、2014年
5. Kondo et al. Birth Defects Research (Part A) 2013. 97:610-615.
6. Obara et al. The Journal of Maternal-Fetal & Neonatal Medicine 2016.
DOI:10.1080/14767058.2016.1179273
7. ICBDSR Annual Report 2014 with data for 2012
<http://www.icbdsr.org/filebank/documents/ar2005/Report2014.pdf>